

会員サービス検討のためのアンケート調査 御礼と結果報告

日本都市計画学会 総務・企画委員会委員長 久保田 尚
同委員会将来ビジョン検討タスクフォース担当委員 樋野 公宏・雨宮 護

本稿では総務・企画委員会設置の将来ビジョン検討タスクフォースが実施したアンケート調査の結果をご報告致します。この結果を受け、総務・企画委員会では、学会のさらなる改革を進め、より多くの方に会員になって頂くとともに、より一層社会に貢献できる学会を目指して検討を進めております。調査にご協力いただいた皆様に誌面を借りて御礼申し上げます。

1. 調査概要

調査は平成27年6月4日から8月3日、本会会員（正会員、学生会員）及び非会員を対象にウェブアンケート形式で実施した。会員には、学会誌、メーリングリスト、フェイスブックで回答を依頼し、非会員には、本会所属の大学教員を通じて、研究室のOB・OGに回答を依頼した。回答者数は会員182名（一般151、学生31）、非会員233名（一般182、学生51）の計415名である。回答者属性を表1に示す。学生会員は修士課程（非会員は学部生）、一般会員は教員（非会員は不動産・建設・設計）が多い。

2. 会員への設問

会員となった理由（表2）としては、一般・学生ともに「研究論文を投稿するため」が最も多く、学会の学術機能への期待が第一の入会目的となっている。ここで、一般を教員と教員以外に区分して集計すると、教員は「研究論文を投稿するため」が9割を超えるのに対し、教員以外は5割程度であり、「都市計画実務の最新情報を得るため」「業務上役立つ情報や人脈を得るため」を選ぶ人が教員よりも多い。学生は、一般に比較し「指導教員等からの指示により」が多い。

魅力的な学会サービス（表3）としては、一般・学生とも学会誌、論文の投稿・発表が上位である。これは、上述の入会理由と整合しており、会員の期待に一定程度答えていると考えられる。ただし、ここでも教員の9割が論文の投稿・発表を選んだのに対して教員以外では5割であり、学会誌を選んだ人が8割を超えることに留意する必要がある。なお、各種専門家との交流を選んだ人の割合は（特に学生で）低く、学会の魅力になっていない。

学会費（表4）について、学生には妥当とされており、本会が取り組んできた学生会員の会費値下げが評価されていると言える（学生会員3,000円）。一方で、一般では高いという回答が過半数である（正会員13,000円）。高い、または安いと答えた正会員に妥当だと思う金額を尋ねたところ、平均値9,160円（中央値、最頻値は10,000円；n=82）であり、教員と教員以外の差はほとんど見られなかった。

学会サービスの満足度（表4）も、学生と比べ一般がやや低い。不満の理由（資料参照）として、イベント関連では学生や若手の交流機会や地方での講習会の少なさ、論文関連では論文のオンライ

ン投稿や掲載論文のオンライン提供への非対応が挙げられた。学会誌については肯定的な評価が多く、学会の魅力になっていることが伺えるが、より実務的な内容を求める声もある。また、学会運営全般に関して、運営の閉鎖性、社会貢献の少なさを指摘する意見もある。

満足度の比較の高い学生だが、卒業／修了後の会員継続については「継続する予定はない」人が1割で、4割の人は態度を決めかねている（表5）。論文投稿のために入会した学生を就職後もつなぎとめるための魅力的なサービスが求められる。

3. 非会員への設問

本調査に回答した非会員のほとんどは会員経験がない（表6）。会員でない理由については、一般・学生とも「学会のことをよく知らないから」が約半数であり、学会活動の広報の必要性が示唆される（現在、情報委員会で入会案内のためのパンフレット作製中）。会員経験のある30名に着目すると「多忙により学会のメリットを活かせそうにないから」を挙げた人が6割、「会費を払うのがもったいないから」が5割である。一般の非会員に入会しても良いと考える金額を伺ったところ、平均値4,026円だった（中央値4,000円；n=175）。自由意見には、就職後も継続して会員となれるような新たな会員区分を提案する声もあった。また、学会発表に対するインセンティブのある企業もあるとのことで、実務の発表機会拡充が求められる。

4. 会員・非会員共通設問

学会に期待することとして、一般は会員・非会員ともに「実務に役立つ講演会・見学会などの充実」を挙げる人が最も多く、「産学の交流推進」が続く（表7）。これらは、会員となった理由（表2）でも、魅力的な学会サービス（表3）でも下位となった項目であり、今後の充実が求められる。学生会員は、「都市計画分野の学生同士の交流促進」「学生による研究発表会やコンペ」という回答が多く、参加機会拡大に対する期待が高い。非会員の学生は「企業関係者と学生の交流促進」を選んだ人が最も多い。具体的な活動のアイデア（資料参照）にも、学生企画のまちあるき、若手実務者や研究者による発表会、インターンの機会を通じた実務と学生のマッチングといった提案がある。一般市民にも開かれた活動とそれによる都市計画の門戸拡大、他学会との共同研究会という提案も傾聴に値する。

学会誌「都市計画」でもっと充実すると良いこと（表8）として、いずれの回答者区分とも「国内のまちづくり・プロジェクトの情報」を挙げる人が最も多く、学生会員を除く区分では「都市・自治体の情報」が続いた。表2に示した通り、学会誌は魅力的な学会サービスとして一定の評価を得ているが、より実務的な情報に対する期待

が高い。一方、学生会員からは「海外の情報」への期待が高い。自由意見（資料参照）にも海外の都市計画制度や事例の最新動向、海外の学会との交流企画という具体的提案があった。このほか、他分野の専門家との議論・意見交換や、異業種からの期待や連携可能性といった、都市計画の学際性や総合性に着目した企画提案があった。



以上の結果を踏まえ、総務・企画委員会では会員サービス向上のための検討を加速して参ります。特にご指摘の多かった、実務につながる情報提供やイベントの充実、若手会員の活躍や交流機会の創出などを目指します。ご期待いただければ幸いです。

表1 回答者属性

	会員 (n=182)		非会員 (n=233)	
	一般 (n=151)	学生 (n=31)	一般 (n=182)	学生 (n=51)
性別				
男性	82.8%	80.6%	87.4%	68.6%
女性	17.2%	19.4%	12.1%	31.4%
年齢				
20～24歳	0.7%	58.1%	1.6%	84.3%
25～29歳	10.6%	19.4%	10.4%	7.8%
30～34歳	16.6%	16.1%	17.0%	5.9%
35～39歳	17.9%	3.2%	12.6%	0.0%
40～44歳	15.9%	0.0%	14.8%	2.0%
45～49歳	11.3%	3.2%	15.9%	0.0%
50～54歳	11.3%	0.0%	17.0%	0.0%
55～59歳	9.9%	0.0%	6.6%	0.0%
60～64歳	3.3%	0.0%	2.2%	0.0%
65歳以上	2.6%	0.0%	1.1%	0.0%
所属課程 ^{※1}				
学部		3.2%		52.9%
修士課程		58.1%		39.2%
博士課程		38.7%		3.9%
その他		0.0%		3.9%
職業				
教員	39.7%		3.9%	
通信・IT・メディア	0.0%		2.8%	
コンサルタント等 ^{※2}	24.5%		17.7%	
不動産・建設・設計	7.9%		58.0%	
運輸	0.0%		3.9%	
地方公務員	9.3%		3.3%	
国家公務員	4.6%		0.0%	
独法・公益法人等	6.6%		5.5%	
定年退職	0.7%		1.1%	
その他	6.6%		3.9%	
所属学会				
日本建築学会	35.8%	25.8%	7.8%	7.9%
土木学会	35.8%	12.9%	9.8%	11.3%
交通工学研究会	16.6%	3.2%	9.8%	4.0%
日本造園学会	15.9%	3.2%	0.0%	0.6%
都市住宅学会	11.9%	0.0%	0.0%	0.6%
GIS学会	8.6%	3.2%	3.9%	0.6%
計画行政学会	6.6%	3.2%	0.0%	0.6%
日本不動産学会	6.0%	3.2%	0.0%	1.1%
その他	16.6%	6.5%	3.9%	5.1%
他にはない	15.2%	51.6%	74.5%	73.4%

※1 設問での区分は順に大学(学部)、大学院(修士/博士前期課程)、大学院(博士/博士後期課程)、その他(研究生等)である。

※2 コンサルタント・シンクタンク

表2 会員となった理由(M.A)

	一般			学生
		教員	教員以外	
研究論文を投稿するため	69.5%	93.3%	53.8%	93.5%
都市計画別冊「都市計画論文集」を読むため	46.4%	53.3%	41.8%	45.2%
学会誌「都市計画」を読むため	44.4%	41.7%	46.2%	48.4%
都市計画実務の最新情報を得るため	33.8%	26.7%	38.5%	19.4%
もともと学生会員であったので継続して	33.8%	31.7%	35.2%	—
業務上役立つ/就職に有利となる情報や人脈を得るため	30.5%	26.7%	33.0%	3.2%
他の会員と交流の機会を作るため	21.2%	26.7%	17.6%	6.5%
学会主催のセミナー等のイベントに参加するため	17.9%	20.0%	16.5%	16.1%
職場/指導教員等からの指示により	4.0%	1.7%	5.5%	16.1%
その他	0.7%	0.0%	1.1%	0.0%

※「—」は当該回答者区分で選択肢のない項目。

表3 魅力的な学会サービス(M.A)

	一般			学生
		教員	教員以外	
学会誌「都市計画」(年6冊)が無料で配布される	73.5%	60.0%	82.4%	87.1%
論文の投稿や発表ができる	65.6%	91.7%	48.4%	96.8%
委員会活動を通して専門家と交流ができる	24.5%	33.3%	18.7%	3.2%
支部活動を通して地域の専門家と交流ができる	21.9%	30.0%	16.5%	3.2%
学会主催セミナー等に会員特価で参加できる	15.9%	11.7%	18.7%	12.9%
学会刊行物を会員特価で購入できる	7.3%	5.0%	8.8%	3.2%
都市計画CPDに関する証明書を発行してもらえる	6.0%	0.0%	9.9%	0.0%
その他	2.0%	3.3%	1.1%	0.0%

表4 学会費の妥当性・学会サービスの満足度

	一般	学生
学会費の妥当性		
高いと思う	56.3%	19.4%
妥当だと思う	43.0%	77.4%
安いと思う	0.7%	3.2%
学会サービスの満足度		
1 とても不満	5.3%	3.2%
2	16.6%	3.2%
3 (中間)	45.7%	54.8%
4	28.5%	32.3%
5 とても満足	4.0%	6.5%

表5 卒業(修了)後の会員継続予定

	学生
5年以上継続する予定である	35.5%
1～4年は継続する予定である	12.9%
継続する予定はない	9.7%
まだわからない	41.9%

表6 非会員への設問

	一般	学生
会員経験		
一度も会員になったことはない	83.2%	100.0%
学生会員だったが、正会員にならずに退会した	7.1%	0.0%
学生会員を経て正会員になったが、退会した	6.6%	—
学生会員を経ずに正会員になったが、退会した	2.7%	—
現在会員でない理由 (M.A)		
学会のことを良く知らないから	46.7%	58.8%
多忙により学会のメリットを活かせそうにないから	36.8%	7.8%
会費を払うのがもったいないから	25.8%	25.5%
学会誌は職場／研究室などで読めるから	22.5%	23.5%
他学会への所属で十分だから	12.6%	11.8%
仕事／学業に関係ないから	14.3%	7.8%
その他	7.7%	3.9%
学会の活動が魅力的でないから	3.3%	5.9%

※「—」は当該回答者区分で選択肢のない項目。

表8 学会誌「都市計画」でもっと充実すると良いこと(会員)／興味のある情報(非会員)(M.A)

	会員		非会員	
	一般	学生	一般	学生
国内のまちづくり・プロジェクトの情報	55.5%	54.8%	82.4%	60.8%
都市・自治体の情報	45.7%	35.5%	53.4%	49.0%
法制度・事業の情報	45.0%	25.8%	53.8%	33.3%
特集のテーマ	37.7%	48.4%	—	—
テーマに沿って書かれた論説	—	—	34.1%	47.1%
海外の情報	36.4%	54.8%	36.3%	47.1%
実務に関する情報	34.4%	14.9%	45.1%	23.5%
研究や研究支援に関する情報	23.8%	32.3%	6.6%	33.3%
文献紹介等の情報	21.9%	29.0%	14.3%	17.6%
教育や教育の成果に関する情報	12.6%	9.7%	7.7%	17.6%
その他	2.6%	3.2%	2.2%	0.0%

表7 学会に期待すること(M.A)

	会員		非会員	
	一般	学生	一般	学生
実務／学生に役立つ講演会・見学会などの充実	54.3%	61.3%	67.6%	52.9%
産学／企業関係者と学生の交流推進	48.3%	38.7%	45.1%	56.9%
学会誌「都市計画」の企画の充実	44.4%	35.5%	14.3%	29.4%
毎年の学術研究論文発表会の充実	41.7%	32.3%	5.5%	25.5%
都市計画分野の実務家／学生同士の交流促進	40.4%	61.3%	43.4%	45.1%
実務での成果を発表する機会の充実	30.5%	—	23.1%	—
学会支部活動の充実	20.5%	16.1%	3.3%	13.7%
学会誌以外の刊行物の充実	18.5%	12.9%	10.4%	3.9%
都市計画CPDプログラムの充実	11.9%	3.2%	16.5%	9.8%
学生による研究発表会やコンペの開催	—	61.3%	—	19.6%
その他	0.0%	0.0%	2.2%	2.0%

※「—」は当該回答者区分で選択肢のない項目。

<資料>主な自由記述(要約)

◆ 満足もしくは不満と考える理由

【会員】学生10名, 一般50名回答

<イベント関連>

- ・支部活動や学生同士の交流について全く知らない。(30-34歳, 博士課程)
- ・CPD対象の講習, 講義等の数が少なすぎる。(50-54歳, コンサルタント等)
- ・首都圏中心の活動のような感じで, 地方でのセミナー・講習会が極めて少ない。(65-69歳, 教員)
- ・実務者向けの調査研究発表の機会が創設(拡充)されることを希望する。(25-29歳, 教員)
- ・若手の交流機会が全くと言ってよいほどない。(30-34歳, 教員)
- ・学会活動にほとんど関与できず, 満足感を実感する機会が少ない。(45-49歳, 不動産・建設・設計)

<学会誌>

- ・学会誌が良い。(25-29歳, 博士課程)
- ・学会誌や論文集が配布される。(30-34歳, 博士課程)
- ・業界の動向がわかる。(25-29歳, 修士課程)
- ・学会誌は毎号テーマが練られていて, 楽しみにしている。(50-54歳, 地方公務員)

- ・都市計画の最新情報を手に入れられる。(30-34歳, コンサルタント等)

- ・学会誌の特集は興味深い記事も多いが, 分野が多岐にわたりにすぎて, 自分の専門分野とかけ離れた話題が少なからずある。

(45-49歳, コンサルタント等)

- ・知りたい分野の実務的な内容が少ない。都市計画から「まちづくり」へ広げた内容が欲しい。(50-54歳, 不動産・建設・設計)

<論文>

- ・過去の論文が公開されていない。(30-34歳, 博士課程)
- ・審査の公正性の不確かさ。(20-24歳, 修士課程)
- ・既往研究をネット上ですべて読めるようにしてほしい。(25-29歳, 独法・公益法人等)
- ・論文投稿システムをオンライン化してほしい。(30-34歳, 教員)
- ・論文集のレベルは高いが, 都市計画実務に関する情報が学会に集約しているかどうかはやや疑問。(50-54歳, 教員)
- ・研究発表大会に参加費が必要なことが不満。(50-54歳, 地方公務員)
- ・共著者も会員にならなければいけない(海外の方との共著のときが大変)。(25-29歳, 教員)

<学会運営>

- ・先生方のつながりで学会が運営されているような嫌いがあるた

め、フラットに参加しにくい。よりオープンな場を提供することを心がけたほうが良い。(35-39歳、コンサルタント等)

- ・学会の研究活動が社会貢献に繋がっていない。(40-44歳、コンサルタント等)
- ・学会という組織より都市計画学が壁に当たっているのではないか。時代に合わせた抜本的思想改革や学問領域の拡大で会員増加は図れる。(70-74歳、独法・公益法人等)
- ・若年会員のような年会費の安価な会員をつくり、論文発表のために入会した学生がそのまま継続して会員となることで、会員構成に厚みが出る。(25-29歳、国家公務員)

◆ 実施を期待する具体的な活動のアイデア

【会員】学生5名、一般27名回答

<イベント>

- ・実務者との交流の機会や実務の現場を学べる機会があればよい。(25-29歳、修士課程)
- ・学生企画のまちあるき。(20-24歳、修士課程)
- ・他学会のようなアイデア・コンペを定期的開催できればいい。(25-29歳、博士課程)
- ・具体的開発案件の事例報告会等の開催。(50-54歳、不動産・建設・設計)
- ・都市計画の実務を評価・表彰する(特に若手・中堅の活動)。(30-34歳、教員)
- ・特に若手が関わりたくなるような取り組み(例えば若手実務者や研究者による発表会等)を期待したい。(35-39歳、コンサルタント等)
- ・学生にインターンの機会を提供(実務の現場と学生のマッチング)するなど。(25-29歳、教員)
- ・異業種交流会(25-29歳、国家公務員)
- ・都市計画を専門としない一般市民にも開かれた活動、他学会と連携した活動。(30-34歳、国家公務員)

<論文・学会誌>

- ・なるべく多くの論文を公開すると良い(会員限定公開でも可)。(30-34歳、博士課程)
- ・論文の質の確保が第一。学術委員会は、エディター制が十分に機能していない。(35-39歳、教員)
- ・学術研究論文発表会は、アクセスが容易で、一般の人々がのぞきやすい場所にするよう希望したい。(40-44歳、教員)
- ・論文、学会誌内容の完全無料一般公開(25-29歳、コンサルタント等)
- ・学会誌をウェブ配信とする。(30-34歳、教員)
- ・学会誌はテーマもルーチン化しているし、掲載されている内容も浅いものが多い。(35-39歳、コンサルタント等)
- ・アブストラクト審査のみによる発表など、活発な議論と交流の機会を設ける。(30-34歳、教員)
- ・学会の参加・投稿のハードルを少し下げ、実務的な論文を出しやすくする(40-44歳、教員)

<学会運営>

- ・学会での委託研究費獲得に向けた営業活動。(45-49歳、コンサルタント等)
- ・学会の先を見据え企画創出する学会マネジメント組織の強化。(70-74歳、独法・公益法人等)
- ・都市計画に関する研究活動助成の拡充。(25-29歳、教員)
- ・「ケースバイケース」の研究課題をしっかりと「論」として組み立

てる機関が、「学会」である。(35-39歳、コンサルタント等)

【非会員】学生4名回答、一般12名回答

<イベント>

- ・既存の法律の縛りを超えた事例の研究とその内容講習。(45-49歳、不動産・建設・設計)
- ・産学だけでなく、官を交えた交流の場。(50-54歳、不動産・建設・設計)
- ・他学会との共同開催の研究会等。(50-54歳、教員)

<学会運営>

- ・学生が参加しやすい雰囲気作り。(20-24歳、学部生)
- ・学会名からは、一部専門家のための組織という印象を受ける。一般人に対して「都市計画」に関わる門戸を拡げるような活動を期待する(セミナーなどの広報活動、事例・マニュアルなどの発行)。(45-49歳、不動産・建設・設計)
- ・浅く広く都市計画に興味のある人なら誰でも入れる学会、実務を優先した学会など、色を強く出す方向が良いのではないか。(50-54歳、独法・公益法人等)
- ・都市に住む一般の住民にとって、学会もしくは学会員の研究成果がいかに役立つものなのかを、わかりやすく丁寧に周知していく必要がある。(45-49歳、不動産・建設・設計)
- ・社会人が継続して入会するように、年会費の安い会員区分を設ける。(35-39歳、教員)
- ・他学会の梗概を提出することで社内の調査研究費をもらえる制度がある。その対象学会になることを目指してはどうか。(40-44歳、不動産・建設・設計)
- ・古い紙媒体をふくめた資料の整理、公開。(35-39歳、教員)
- ・政策提言能力の向上。(35-39歳、コンサルタント等)

◆ 学会誌「都市計画」で取りあげると良い内容

【会員】学生5名、一般26名回答

- ・海外の都市計画(制度、事例)の最新動向や海外の学会との交流企画。(25-29歳、修士課程)
- ・他分野の専門家との意見交換のような企画。都市計画は学際的な分野だと言われるが、他分野と正面から議論している場があまりない。(25-29歳、修士課程)
- ・もっと気軽に意見を投稿できるスペースがほしい。(25-29歳、教員)
- ・ある特定の地域を対象とした特集。(40-44歳、教員)
- ・各自治体における計画・構想や事業等の紹介、まちづくり団体等による活動の状況。(35-39歳、コンサルタント等)
- ・違う業界(不動産、交通、IT、物流等)から見た都市計画というのがどういう視点でとらえられているのか、都市や都市計画に対しての期待や連携可能性などを知りたい。(35-39歳、教員)